

農政建設委が田んぼの水不足調査

市議会農政建設常任委員会は26日、牧区、浦川原区、安塚区、大島区の田んぼの水不足を見て回りました。私は同委員ではありませんが、同行させてもらいました。

牧区は高尾の田んぼへ行ってきました。棚田新田に近い田んぼです。雪が少なかったこともあって、ため池の水がなく、代かきできない田んぼが何枚も残っていました。左のイラストはその田んぼの一枚です。

浦川原区谷の田んぼ。ため池の水のたまり具合を見て、2枚の田んぼには水を入れないことにした、と案内役の渡辺さんは言っておられました。1枚の大きな田んぼをバックホーを使って、水をためるところ、作付けするところ、耕作しないところの3つに分けていた田んぼもありました。金銭的にはマイナスになっても田植えをしたいという執念をもって頑張る農家がある

ことを知り、感動しました。農家のこの気持ちに伝える農政でなければなりません。

安塚区は原山へ行きました。田植え後、雨が降ったものの、田んぼのひび割れが続いていました。時間がなく、田んぼまで下りて耕作者の説明を聴けなかったのが残念でした。

大島区は大平へ行きました。ここは、15日にも見せてもらったところです。雨が降っても水が溜まらないのは、昨年の干ばつの事後処理が十分できなかったことが大きい原因の一つです。水が入っても割れ目から下に抜けてしまつのです。田んぼの割れ目の深さが20センチにもなっているところがありました。左下の画像がそれです。

農政建設常任委員会では、「議会では何が出来るか」をよく議論して対策を打ち出したいと思っています。



不適切発言をした市長の問責決議案、賛成少数で否決

一般質問3日目の18日、中川市長は、信越化学工業についての質問に答える中で、「研究開発をしていらっしゃる方々は270名程度と聞いている。それ以外は工場での勤務だ。基本的には高校を卒業したレベルの皆さんから働いてい

ただくことになるので、頭のいい方だけが来るわけではない」と発言しました。

この高卒者を差別する発言には議場からブーイングの声が上がり、問責決議案提出の動議が宮越議員から出されました。動議は成立したものの、決議案は本会議で読み上げられることもなければ、決議案に対する質疑も討論もなく、いきなり採決されました。採決の結果は、日本共産党議員団、市民クラブ、会派に属さない4人の議員（合計で13人）が賛成しましたが、他の議員は反対しました。

決議案は、「中川市長は、たびたび失言し、謝罪を繰り返してきた。にもかかわらず、本日もそのような失言を発し、市政への信頼をそこねたことを上越市議会は見逃すことはできない。よって、上越市議会は、中川市長に対し、猛省を促すとともに、その責任を強く問うものである」という内容です。

この決議案否決後、市民、マスコミなどから議会の対応について批判や疑問の声が上がり、定例会最終日の21日、渡邊議長は議会の全会派の同意を取り付けたうえで、市長に抗議文を手渡しました。



【ホオズキ】

(再掲) ナス科の一年草または多年草。漢字で「鬼灯」と書きます。草丈は60センチ～80センチ。花は白、花期は6～7月です。花の後、「がく」が発達してオレンジ色の果実を包みます。花言葉は「自然美」「私を誘って」など。写真は6月20日、吉川区内にて撮影しました。



コウノトリは足環をつけてもらってから元気です。大きさはすでに親と同じくらいになり、順調に成長すると、早いものは来週にも巣立つかも。6月21日撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.2161 2024.6.30

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八〇八回

お茶飲み場

数人が集まって気軽にお茶飲みできるたまり場、昔は農機具屋さん、鉄工所さん、酒屋さんなどけっこめりましたね。

先日、田んぼの干ばつ被害調査の途中、数少なくなったお茶飲み場のひとつ、吉川区福平の農産物直売所に寄ってきました。誰がおられるかなと、車のスピードを落とし直売所の中を見たら、E子さん、F子さん、Hさんなどの姿が見えました。

時間は午前一〇時半頃です。直売所に野菜などを持ち込み、売り物を並べ終わった段階でお茶飲みを始め、まだ続いていたようです。車を止めて中に入ろうとすると、Hさんに、「あらー、いま、先生帰んなったばっかだよ。おまんに頼みたいことあるそってなつたよ」と言われました。

Hさんが言う先生とは私の中学時代の恩師、實英先生のことです。たぶん、がっかりしている様子が私の顔に出ているのでしようね、Hさんはすぐに先生に携帯電話をかけてくださって、先生には再びお茶飲みの場に戻っていただきました。

私がお茶飲みに参加して最初に言われた言葉は、「選挙も終わったし、来(き)なんねがかね、と噂してたがだ」でした。今年度直売所がスタートして初めての訪問でした。どういう言葉であれ、私のことを気にかけてくれたねのはうれしうす。

「いやー、いろいろと騒ぎが続いてね。なかなか来れなかったがどね」と言っていたのですが、実は私自身も、ずっと気になっていたのです。

私の言い訳が終わってからは、いつものように楽しく、面白い話になりました。

一番新鮮に聴こえてきたのは、料理の話です。K子さんだったと思いますが、「ひとかたけだけ、残らんように作るの大変なんだわ」と言いました。久々に聴く「ひとかたけ」です。誰かが「一人分作るのって大変だよ」と言っているのは、一人分の

料理のことが話題の中心になりました。

實英先生が「大根一本もらっても、どうやって使い切るか悩むこて」と切り出すと、「昔は煮物に入れてあまっても、次の日のお風呂に食べたもんだ」「夏場になりゃ、ニオイかいだぐれにして食べた」「いまの若いしよは衛生的なんだよね。冷蔵庫の中を見て、じいちゃん、これダメだよって言うんだよ」「おら、作るがやだ」などと賑やかに続けました。

話を聞いていて、私が思い出したのは、二か月ほど前の夕方、原之町で見かけた素敵な光景です。昔、下宿屋もやったことのある八〇代のK子さんが、道をはさんで反対側に住んでいる同級生のU子さんに、「おまん、夕飯作ったかね。作ってねかつたらおら家で一緒に食べねかね」と声をかけていたのです。K子さんもU子さんもすでににお連れ合いをなくし、一人暮らしです。一人分の料理をどう作るかも大切ですが、こんなふうに助け合って食事するっていいなと思いました。直売所でのお茶飲みでは、この二人のことも紹介しました。

この日のお茶飲みでは、それぞれの結婚をめぐる話でみんなが大笑いしました。

誰かが私に、「板山のY子さん、どうしてなるかね」と訊いたので、「生きていなるよ」と冗談まじりに答えました。そうしたら、「よくあそこに行きなつたよね」「父ちゃんが土方に来て、連れてったがだ」「旦那に惹かんたがだこてね」「他人(ひと)のこと言つたって、みんなそいがだ」「おらだけだ。騙(だま)さんてきたがは」と話が終わらなくなりました。

直売所では約一時間、過ごさせてもらいました。誰でも歳を重ねます。連れ合いを亡くしてひとりになるときも来ます。そんななかで切ないこと、悲しいことを忘れ楽しむ。それができるお茶飲みの場所は大事にしたいものです。

雨の中、市消防点検



イラストは小型ポンプ操法 (吉川方面隊)

市消防点検は23日、春日野駐車で行われました。いつもは暑いのですが、今年は異例ともいえる雨の中での点検となりました。

点検はポンプ車操法と小型ポンプ操法のみ。上越方面隊第三分団がポンプ車の部で、三和方面隊美守分団が小型ポンプの部で優勝しました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月19日(水)	6月26日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.053	0.053
頸南消防署	0.060	0.070
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.053	0.053

月影歌謡祭、今年も賑やかに

浦川原区の月影の郷で23日開催された「月影歌謡祭」に来賓として呼ばれました。今回の歌謡祭には上越市内外から

63組が参加、歌や踊りなどを披露して大きな拍手を浴びていました。イラストは浦川原区内から参加した春日さん、藤田さん、横尾さんの

